

UNIVERSITY CONSORTIUM KYOTO



公益 大学コンソーシアム京都
財団 法人 The Consortium of Universities in Kyoto
URL <http://www.consortium.or.jp>

会報
No.43
2012.10

特集1

京都美術工芸大学

日本の美から未来を生み出す、
ただひとつの大学として。
京都美術工芸大学、誕生。

特集2

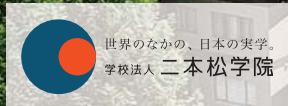
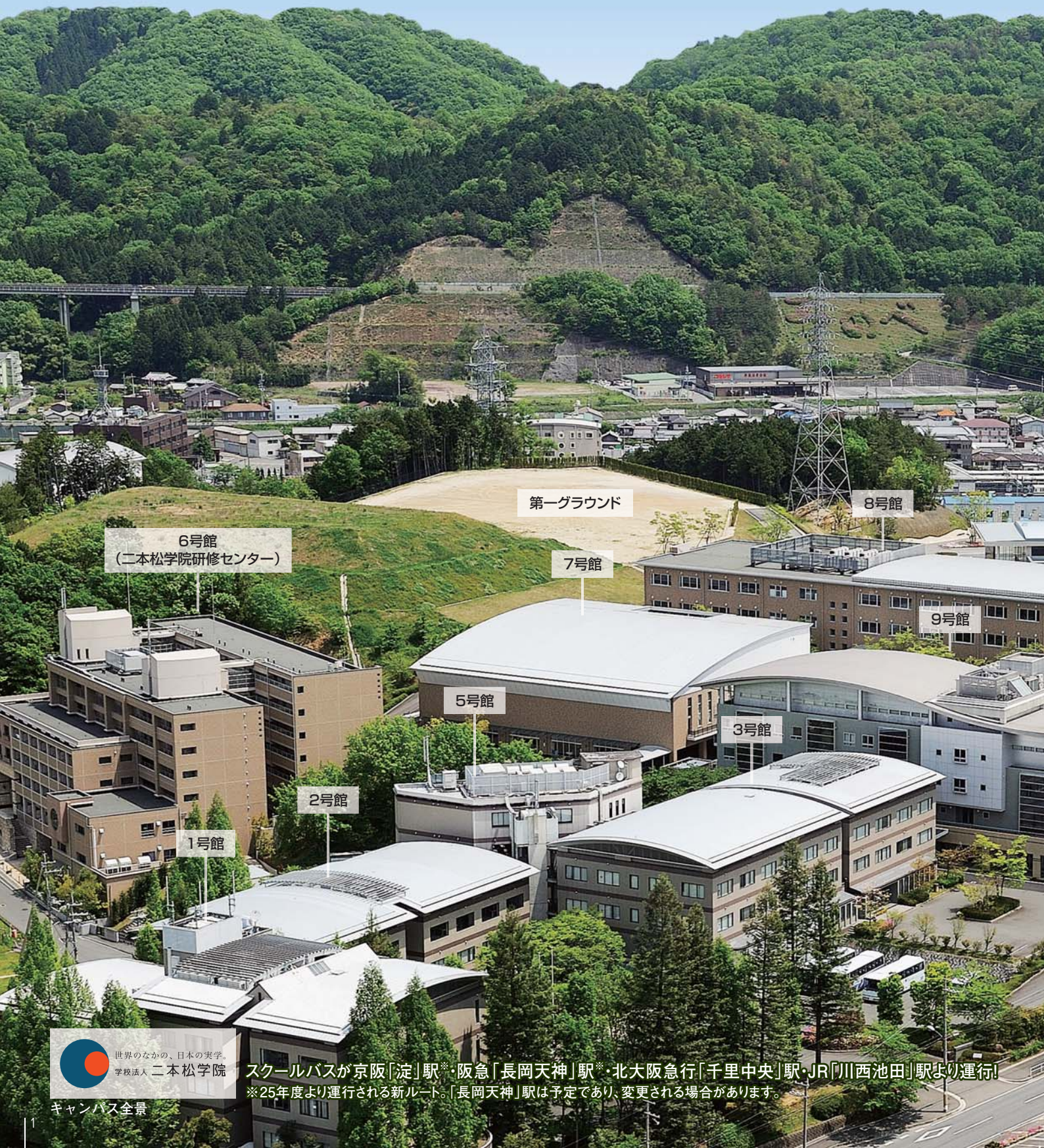
赤松理事長・京都学生祭典実行委員長対談
情熱と知性をもって京都学生祭典に取り組む!



【京都美術工芸大学】〒622-0041 京都府南丹市園部町二本松1-1 JR嵯峨野線園部駅前

日本の美から未来を生み出す、
ただひとつの大学として。

京都美術工芸大学、誕生。



キャンパス全景

スクールバスが京阪「淀」駅*・阪急「長岡天神」駅*・北大阪急行「千里中央」駅・JR「川西池田」駅より運行!
※25年度より運行される新ルート。「長岡天神」駅は予定であり、変更される場合があります。

日本で唯一の「工芸学部」

伝統工芸コース 【陶芸】【木工】 【漆芸】【彫刻】

伝統工芸コースは、わが国が誇る伝統工芸の技術、美意識、精神性をじっくり学ぶため、陶芸・木工・漆芸・彫刻の4分野を置いている。新入生は多くの教養科目を学ぶと同時に、全員が1年次から2年次前期まで伝統工芸の基礎技術を習得するが、伝統工芸コースではさらに4年次までの専門実習で、実務家でもある教員が長時間の実習を通じて専門的指導を行い、伝統産業の活性化に貢献できる人材を育成する。



文化財修理コース

文化財を次代へ継承する保存・修理技術の習得が不可欠である文化財修理コースでは、製作年代や素材、周辺史料の調査・分析から適正な修理方法を選択し、実施できる技術を学ぶ。国宝や重要文化財の修理に携わり、もしくは指導にあたった教員が専門的に指導する。文化財の保存・修理・研究・活用に、自ら感性と技術を磨いて取り組む姿勢を養う。



工芸デザインコース

工芸デザインコースでは、日本的な美意識の上で、日本の伝統が育んだデザイン、工芸技術、素材を深く理解し、それを未来に向けて総合的に再構築することのできるプロデューサー型の人材を育成する。日本の美意識を実用品に織り込み、暮らしを豊かにするプロデューサーを目指し、紙の上のデザインのみならず、素材や工法の選び方、コスト、納期、品質面での知識、販促や演出からブランドづくり、マーケティングまで、幅広い知識を学ぶ。



建築コース(建築デザイン・伝統建築)

モダリズムが行き詰まりを見せる中、日本の特質をもった建築空間を生み出すため、計画・構造・施工・法規に関する一般的な工学的知識に加えて、美術工芸や伝統建築にも視野を広げ、新しい空間を生み出す建築デザイン手法を学ぶ。また、社寺や町家をふくむ民家、茶室といった伝統建築を専門的に学ぶことも可能であり、調査方法や歴史的背景の分析手法、雛形(建築模型)制作などの授業を用意している。

在学中に 【二級建築士】取得可能

二級建築士受験資格取得講座(2年間)の受講料を全額(108万円)免除。



バイク置き場

情熱と知性を持って 京都学生祭典に取り組む

2012年6月に新理事長に就任した龍谷大学学長赤松徹眞氏、2012年度に第10回という節目の年を迎える京都学生祭典実行委員長を務める向島翔也さんを招き、京都学生祭典について語っていただきました。

■ 理事長就任にあたって

司会 新たに理事長に就任されての今後の抱負について、お聞かせください。

赤松 基本的には、これまで大学コンソーシアム京都が展開してきた事業を継承していきます。今の時代だからこそ社会から期待されていることに対して、大学が高等教育機関としての役割を果たしていくためには、行政、経済団体とつながりを持ち、対話(コミュニケーション)を重ねていくことが重要です。産学公連携のため具体的な活動を担う組織として大学コンソーシアム京都がありますので、相互関係を円滑にするためにも、大学コンソーシアム京都の事業を着実に進めていきます。



赤松徹眞
公益財団法人
大学コンソーシアム京都
理事長

■ 京都学生祭典は大きい!

司会 これまでの京都学生祭典との関わり、持っているイメージについて、お聞かせください。

赤松 学生祭典のことは知っていましたが、昨年度始めて副理事長として参加し学生の元気の良さを感じられて良かったと思います。また、京都は国際文化都市でもありますので、日本だけでなく世界に学生が持つ優れた能力、多様な取り組みを広く発信するものとして京都学生祭典は集約的な事業の1つですので、今年も新たなテーマのもとでの多様な取り組みを楽しみにしています。

向島 大学に入学した後の1回生の4月から運営に参加し、実行委員として京都学生祭典に関わるのは今年で3年目です。京都を中心とした1000人を超える大学生が主体となってこの祭りを運営していますが、日頃から支えて下さる様々な関係機関の皆様にも参画して頂いて創り上げるという点が京都学生祭典の1つの魅力だと思いますし、活動する上での充実感に繋がっています。やっけていて苦労することや辛いこともあります。それ以上に楽しいことややりがいがあり幸せだなと感じています。

司会 具体的な思い出をお聞かせください。

向島 昨年は営業部長として、60社ほどの企業を訪問し学生祭典の活動内容などをプレゼンしました。相手に祭典の活動を応援しようと思ってもらえるように説明しましたが、自分たちが思っていることを理解してもらい難しさ、受け手によって学生祭典の印象は全く違うということを感じました。実行委員長という立場に変わっても同様で、人と関わることで学ぶことは非常に多く、「お付き合い」の大切さを強く感じ



ています。

赤松 学生祭典の活動している学生からはアクティブさを感じますね。学内で活動しているだけでは出会わない人—会社関係者や京都市職員などの学外関係者—と出会い、連結しながら祭典事業を担っている学生は、充実した学生生活を送れていると思います。私たちの立場としては、そういう成長している学生を見守っていきたくですし、また他の学生にも充実した学生生活を過ごしてほしいと思います。

■ 第10回は原点回帰 ~ 地域との連携 ~

向島 第10回の京都学生祭典は、1年間のコンセプトとして「想いと未来の『糸』を紡ぐ」を掲げています。キーワードはやはり『糸』です。これまで、学生祭典には9,000人以上の学生、何千人もの大人の皆様のご支援を賜りつつ、今日まで発展と継続をしてきました。その人々が抱く想い—学生祭典が好き、もっと関わってほしい—を1本の「共感」という糸として紡いでいきたい、一緒になって学生祭典を作っていきたいというのが今年のテーマです。「All京都(大学界・行政・経済界・地域・学生)で創る祭り」が学生祭典の原点だと思いますし、記念すべき10周年を共に創っていくことを追求して、1年かけているような機関の方と連携していく方針を打ち出しています。

赤松 今回のテーマ「想いと未来の『糸』を紡ぐ」は、京都にとって非常にいいテーマだと思います。京都は西陣織のように糸を紡いで織を作るというものを創りだしてきました。今の時代でも、大学、行政、経済団体の糸をどのように紡いでいくのかは大切な課題ですね。それぞれとの糸の紡ぎ方を、学生祭典の経験を生かしながら、自分たちの場所、今後どのような社会を構想していくのか、どういう未来を創っていくのかということを実際に考えていかなければならないと思います。



司会 いろいろな機関の方との連携とはどのようなものですか。

向島 今年は活動の3つの柱として、10月7日の京都学生祭典本祭(以下、本祭)、「京園 まくなし!」、地域交流活動を掲げています。地域交流活動では、岡崎地区、安寧・梅逕地区で行う夜間パトロール、クリーンアップ清掃活動など地域の皆さんとの交流を通して祭りを盛り上げられるよう取り組んでいます。「京園 まくなし!」は今年から始めた新しい取り組みで、祭典主催のイベントを主にZEST御池様やゴールデンウィークにはイオンモール京都様を会場に今年4月から12月までの間、計数十回程度の催しを行っています。年間を通した企画に挑戦することで、祭り1日だけでは築けない強い繋がりを生み出し、祭典の知名度向上を目指しています。実際に京都の各大学様の学生サークルにも参加していただいて、学生祭典主催の中に大学生が主人公として活躍できるように作り上げています。

司会 京園 まくなし!の立ち上げはこういった思いからですか。

向島 10月の本祭イコール京都学生祭典というイメージが強いのですが、



本祭までには夜間パトロールなどの地道な活動を積み重ねています。今年は年間を通したいろんな活動をクローズアップしていきたいという思いがあって、その1つとしてこの取り組みを始めました。また、実行委員1人1人が主役として「京園 まくなし!」の企画を作り上げていく経験が僕らのスキルアップにもなりますし、本祭に向けての課題発見もあり、実行委員の育成としても成果は上がっていると思います。

■ 知性を育む

司会 実行委員の育成という話がでましたが、赤松理事長は育成についてどのように思われますか。

赤松 二十歳前後の若者が企画を立て実行するにあたって情熱的に一直線に進みがちなのは自然なことだと思いますが、大学生としての学びから培われた知性、冷静な眼差しから物事を多様に分析できる



ような能力も同時に培ってほしいです。知性的な面も追求することでなければ、大学生として4年間学んだものを活かさできません。大学生としての知性を兼ね備えながら、一方では若者としての情熱を持ち、壁にぶつかっても乗り越えることの積み重ねを経験することは貴重だと思います。それを温かくサポートするというのが大学の役目ですね。行政や経済団体の方々には厳しく見られるので学生がやっていることに欠陥や目につくところもあると思いますが、成長としての伸びしろを見守っていただきたいですね。成長の伸びしろを見ていく余裕がなければ学生は育ちません。そういう視点で私たちは支援をすると考えたほうがいいのかと思っています。

向島 凶星なことを言われてしまいました。僕は一つのことに向かって突き進むほうでして、周りを見れていないことがすごく多いんです。そのぶん熱中して僕自身は学生祭典に取り組んでいます。学生祭典は取り組みば取り組みほど感動できることがあります。一方で理事長がおっしゃるように、知性はまだまだ欠けている部分がありますし怒られることもしばしばあります。

司会 祭典に参加する前と今とで自分自身で変わったと思うことはありますか。

向島 周りが見えないことが課題でしたが、学生祭典を通して一人では作られられないということを学びました。自分の思いを尊重して突き進んでいきたいけれども、それだけでは乗り越えられない壁もあって、自分の考えを述べることで人の考えを取り入れることの駆け引きを自分の中で消化できるようになったと思います。会議の中でも、人の意見を選定できるようになったと思います。

赤松 学生がいろんな経験をするのも大切ですが、多様に分析をして言語で説明をするといった場合には言語能力・表現能力を同時につけていくことがかせません。分析したものを言葉として表現し相手に伝えて



いくためには、言語コミュニケーション能力を身につけていく必要があり、そこには論理力も必要になってきます。それは感動したとかという情緒のレベルでなく、言語表現力でどれだけ豊かに言葉を紡いで伝えていくのかということも併せ持つことが重要です。

祭典は感激して感極まる気持ちを共感できるフェスティバルといった面もあると思います。共感する空間を地域としても作り上げていくというのはとても意義がありますよね。しかし、学生祭典という限りは、共感とともに、一過性のものじゃなくて知性として持続するものじゃなければいけない、そこを忘れてはいけないと思うんです。経済界の方々もそういう面を期待するところが大きいから時々的確に指摘されることもあると思います。そういうことを実行委員も出来るだけ意識しながら活動する、委員長には学生自身が大学生としてはそういうことが大切なんだということを伝えてほしいですね。

■ 本祭に向けて

向島 10月7日の日曜日に岡崎公園一帯で行う10年目の本祭は、これまでの集大成と新たな始まりということを意識して作り上げています。これまで受け継がれてきた企画を更に革新させた企画や、10周年を記念して取り組んでいる企画(イルミネーション)もあるので、新しい学生祭典の姿を感じていただきたいです。

赤松 学生祭典に参加の学生諸君はテーマを内面化して、それを表現して、京都や京都以外の国内外の方々にも京都の学生のモデルを発信していただきたいと、期待しています。また、くれぐれも事故のないよう気をつけて、祭典が盛会となりませう願っています。



向島翔也
龍谷大学3年生。
第10回京都学生祭典
実行委員長。

京都学生祭典とは・・・

「学生のみち」京都だからできる、学生プロデュースの祭。大学生と産・学・公・地域が互いに連携して京都の魅力・学生の魅力を発信し、京都をさらに盛り上げている。2003年の秋に第1回京都学生祭典を開催し、2012年に記念すべき10年目を迎える。

URL <http://www.kyoto-gakuseisaiten.com/>



第15回京都国際学生映画祭

公式ホームページ <http://www.kisfvf.com/>

開催日時：2012年11月17日(土)～23日(金・祝)
 会場：京都シネマ(COCON KARASUMA／古今烏丸 3F)
 主催：公益財団法人 大学コンソーシアム京都
 企画運営：第15回京都国際学生映画祭実行委員会
 運営支援：京都国際学生映画祭企画検討委員会

今年で15回目を迎える京都国際学生映画祭は、京都周辺の学生が主体となって企画・運営を行う日本最大の国際学生映画祭です。国内外の学生作品を募集し、グランプリ他各賞を決定するコンペティションを中心としており、本祭ではその入選作品をメインプログラムとして上映します。同時にその他魅力的な企画も開催予定です。この機会に是非、ご来場ください。

京都シネマ	
11/27(Sat)	11/28(Sun)
17:00 19:00 コンペティ ション プログラムA	17:00 19:00 コンペティ ション プログラムB

満席

未来の原石を

現在プロとして活躍される映画監督や作家の中にも、学生映画を原点とする方は数多くいらっしゃいます。嬉しいことに、本映画祭コンペティション入選がきっかけとなることもあります。映画祭での出会いや経験が作家に良い影響をあたえるといっても過言ではないでしょう。そのような未来の原石を目の当たりにできるかもしれません。

学生と作品の多様性

本映画祭は、所属する学校や国境という垣根を越え、国内はもちろん海外の学生が「映画」によって繋がり、互いに刺激をシェアする場でもあります。劇映画やアニメーション、ドキュメンタリー、実験映像といった様々なジャンルの制作者がお互いに良い影響を及ぼしあうのです。多種多様な作品を是非ご覧ください。



お問い合わせ

第15回京都国際学生映画祭実行委員会
 〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ルキャンパスプラザ京都
 TEL:075-353-9430(月曜休) FAX:075-353-9101 E-mail: info.2012@kisfvf.com

京都学生芸術普及事業

facebook <http://www.facebook.com/#!/ArtsBar2011>



主 催：公益財団法人 大学コンソーシアム京都
企画運営：京都学生芸術普及委員会
運営支援：京都学生芸術ネットワーク担当者

京都には11の芸術系大学があり、各大学にて卒業制作展、進級制作展会、学生の個展など様々な制作展が数多く開催されています。そこで、展覧会情報の発信や、芸術に関するイベントを開催し、京都地域の芸大生の作品や感性に触れる機会をつくります。京都府民・市民の皆さまに芸術・文化に対する興味・関心を持っていただき、制作展への来場への促進はもちろん、芸大生との交流の場を増やします。最終的には「芸術のまち京都」としてアーティストを育む土壌を創造することを目指します。

2012年度テーマ「京の創造」

京都は「大学のまち・学生のまち」であると同時に「歴史」「観光」「伝統」などでも世界を代表する都市です。その魅力ある京都に「芸術」という要素を新たに付け加え、根付かせることで、新たな京都を創ります。



そして、『京』(きょう)には「アーティストと鑑賞者を『共』につなげ、『共』にHAPPYにしていこう」「京都の『今日』を盛り上げていこう」という私たちの想いが込められています。私たちの活動により、アーティストと府民・市民・観光客などが共に楽しんでいただくことによって、芸術文化都市としての京都を生み出します。

新実行委員募集

現在、京都を芸術で
盛り上げるための企画を考える
スタッフを募集中!!

参加資格

2012年度に、大学(院)・短期大学・専修学校に通う18歳以上の学生であること。

活動時間

火～日曜日の9:00～20:30の時間の中で、活動しています。
(部署・時期によって活動時間が異なります。説明会にて相談に応じます)

活動場所

キャンパスプラザ京都内「学生Place+」
※興味をもたれた方は、以下のお問い合わせ先のE-mailまで【件名】新実行委員募集【本文】“氏名”“大学名”“回生”を記載の上、ご連絡ください。

お問い合わせ

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ルキャンパスプラザ京都
TEL:075-353-9189(月曜休) FAX:075-353-9101
E-mail: arts2012-ml@consortium.or.jp

サークル活動における
大学間連携

学生の手で守る 文化財

インターンシップ学生
小川 真由(龍谷大学3回生)

自発的に行動を

案内をするのは、「**関西古美術連盟**」加盟サークルに所属する学生です。主催する「**京都古文化保存協会**」から案内を含めた運営の要請が来ると、各サークルの代表が話し合い、担当する寺社を決めます。そして、寺社の方の話や文献をもとに資料を作成し、サークル員はそれを参考に下見などを行い、案内に向けて知識を深めます。さらに、京都市の消防局の指導のもと救命や防火の講習を受け、万全の態勢で本番に臨みます。

これら学生の活動は全てボランティアであり、学生が自発的に行っています。自主的に文化財に関わり多くの拝観者の方を案内する中で、いかに満足してもらい文化財の大切さを伝えるかを試行錯誤することは、かけがえのない経験になることは間違いありません。また、一回生のときに不安を抱いていた学生が先輩になり後輩を指導したり、学生同士でアドバイスをし合うなど、学生間でも自主性を見ることができます。さらには社会人になっても手伝ったり、自身が担当した寺社で結婚式を挙げたりする人もいます。学生の期間だけでなく卒業後も関わりを持ち続けられるような思い入れのある寺社ができるのも、特別拝観を経験することの良さであり、人生の財産になることでしょう。



学生案内の魅力

学生による案内は拝観者の方々の評判も良く、「初々しさが良い」「とても爽やかで清々しい気持ちになる」という意見があります。また、目を見張るほどの成長を見ることができるのも学生による特別拝観の魅力だと協会の方は捉えています。文化財を将来に継承するためには、若年層が文化財に対して関心を持つことが重要です。その普及啓発活動の一環として「**京都非公開文化財特別公開**」は、始まって以来学生が関わり続けています。寺社側も好意的で次回の案内もぜひという要望もあり、協会・寺社・学生、この三つには大変強い信頼関係ができていくことがうかがえます。その信頼関係が続くことが文化財の継承に繋がるのではないのでしょうか。

今年の秋にも京都非公開文化財特別公開が開催されます。せっかくの機会に、寺社に足を運び学生の案内を聞いてみて下さい。



第48回 京都非公開文化財特別公開

【開催期間】

平成24年11月2日から11月11日

詳しくは、公益財団法人京都古文化保存協会HP
(<http://www.kobunka.com>) を参照。



関西学生古美術連盟

京都にある9大学(関西学院大学、京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都女子大学、京都造形大学、同志社女子大学、同志社大学、立命館大学、龍谷大学)11サークルが所属しており、京都非公開文化財特別拝観や、合同で散策会、合宿、シンポジウムなどを行っている。

公益財団法人京都古文化保存協会

京都で文化財を所有する方々が集まる団体。文化財保護法にある「文化財の保護と活用」を目的として様々な事業を行っている。

【参考・協力】公益財団法人京都古文化保存協会、関西学生古美術連盟

高等教育研究推進事業部

FD関係事業

2012年度京都FD執行部塾を開催しました。

【日時】2012年6月23日(土)

【場所】京都タワーホテル

【講師】飯吉 透氏(京都大学 高等教育研究開発推進センター教授)
グローバル時代における組織的な大学教育改善とリーダーシップ

【参加者数】53名

米国カーネギー財団やMITでの豊富な高等教育に関する知識とご経験をもとに組織的な大学教育改善について示唆に富むお話をいただきました。



SD関係事業

2012年度大学職員共同研修プログラムを実施しました。

プログラム名	開催日	対象	参加人数
ビジネスマナー研修(基礎)	3/21(水)~23(金) 6/8(金)	新任職員	70人
ビジネスマナー研修 (リフレッシュ)	8/7(火)	勤続3年以上	17人
アカウントビリティと プレゼンテーション	8/8(水)	中堅職員以上	39人
コーチング	9/7(金)	中堅職員以上	37人
時間管理術	9/11(火)	新任~中堅職員	42人



2012年度MUELC (Monash University English Language Centre) 職員対象海外研修プログラム参加報告

本研修プログラムは、当財団とVIDC (Victorian International Director's Committee) との交流協定をきっかけにモナシュ大学 (オーストラリア・ビクトリア州) にて2011年度より実施されています。このプログラムでは、大学の国際化に対応し得る大学職員の育成を主な目的としています。

主な授業内容は、ロールプレイやディスカッション等をベースに、ビジネスコミュニケーションを学ぶ英語運用能力向上を目指した授業をメインとして、「モナシュカレッジ (大学付属の教育機関) の役割」と「モナシュ大学の国際戦略」についての講義を受講しました。

英語運用能力を鍛える授業では、教員の説明、リーディングマテリアルの素早い理解ができないと、正確なロールプレイやディスカッションができないため、かなりの集中力が必要です。よって、1日4時間程度ですが、かなり疲労します。

参加者は期間中、全員ホームステイすることになります。これが私にとっては会話力を高めるとも良い機会となりました。文法的なことを意識し、日本語で文章を考えてから英語に直していると、とても時間がかかり、レスポンスが遅くなります。先生は待ってくれますが、ホストは待ってくれません。よって、会話を続けるためには、いかに素早く、アウトプットを増やすかということ意識してホストに接していました。これが最終的には功を奏し、最終プレゼンや修了式でのスピーチについても、何も見ずにすべて英語で行うことができました。

最後になりますが、今回の研修を企画し、この機会を提供いただいた関係各位に深くお礼を述べたいと思います。



プログラム名	期間	派遣先	参加人数
MUELC職員対象 海外研修プログラム	2012年8月8日 ~2012年9月2日	Monash University English Language Centre(オーストラリア メルボルン)	6人

高等教育研究推進事業部

大学地域連携モデル創造支援事業(学まちコラボ事業)

大学と地域との連携による取組に対し、助成金を交付する「学まちコラボ事業」について、2012年度は、以下の事業を認定および奨励団体として採択いたしました。

1. 認定団体

事業名	大学・団体名	行政区
京都白川 水上空間の交流づくりワークショップ	京都大学	東山区
嵐山 セタ文化のまちづくり2012	京都嵯峨芸術大学	右京区
京都三条節おぼけ2013	京都精華大学 精華お化け会	中京区
パープルフレンズによる 「まちつたフェスティバル」開催に向けた 支援事業	佛教大学 むらさきづつ	北区
深草SOSUI(疏水)物語	龍谷大学	伏見区
人をつなげる縁側プロジェクト 実行委員会	龍谷大学 立命館大学	下京区
三十六歌仙まちなか博物館構想	龍谷大学	下京区

2. 奨励団体

事業名	大学・団体名	行政区
ことおこしをデザインするプロジェクト	京都造形芸術大学 近代産業遺産アート再生プロジェクト [まか通VI]	東山区
よう北野まつり	佛教大学 特定非営利活動法人 よう北野まつり	上京区



都市政策研究会研究助成事業

都市政策分野にかかる若手研究者の育成を目的として、2012年度は以下の研究を採択いたしました。

研究代表者	所属機関	研究テーマ
中道 純子	立命館大学大学院 政策科学研究科 政策科学専攻 博士前期課程	潜在化するホームレスの現状と課題 —京都市を事例に—
梁 説	立命館大学大学院 先端総合学術研究科 (共生領域) 一貫制博士課程	住民の意識調査から読みとる 都市型「共生」社会の実現プロセス —共汗型地域計画先進地「京都市南区東九条」 地域の多文化共生に向けた実践に関する研究—
前田 瑠佳	京都橋大学大学院 文化政策学研究科 博士後期課程	地域演劇の継続的活動が 成立する要件に関する研究

2012年度短期留学プログラム

2012年度前期は以下のプログラムを実施しました。

プログラム名	期間	派遣先	参加人数
ボストン・サマーセッション	2012.8.20 ～2012.9.16	昭和女子大学 ボストンキャンパス(アメリカ ボストン)	7人

シンクタンク事業(未来の京都創造研究事業)

2012年度に取り組む6件の調査・研究テーマが決まりました。

「四地域を通して考える地蔵盆～世代間の伝承構造と地域コミュニティでの機能～」 京都精華大学人文学部・教授 真下美弥子
「地蔵盆の運営実態と地域のレジリエンス向上に果たす役割に関する研究」…指定課題 京都大学大学院工学研究科・研究員 前田昌弘
「修学旅行の訪問先が大学進学に与える影響の分析と大学の魅力発信の方策 ～修学旅行生および大学在校生に対するアンケート分析等を事例として～」 平安女学院大学国際観光学部・准教授 井上学
「二条駅周辺の再開発とまちづくり～「立地創造」の視点から～」…自由課題 立命館大学文学部・准教授 加藤政洋
「京野菜(地場農産物)でつながる洛中洛外ネットワーク:地産地消の過去・現在・未来」 …自由課題 同志社大学経済学部・助教 三俣延子
「家族介護者の仕事と介護が折り合う環境(ワーク・ケア・ライフ・バランス)の 実現に向けた支援策の提供」…昨年度からの継続課題 立命館大学産業社会学部・准教授 斎藤真緒

総務・広報部

全国大学コンソーシアム協議会

第9回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

- 【日時】2012年9月1日(土)～2012年9月2日(日)
- 【場所】グリーンホール相模大野・相模女子大学
- 【主催】全国大学コンソーシアム協議会
- 【メインテーマ】「活力あふれる魅力的な地域社会の創造」—10年後の日本を担うきみたちへ—
- 【参加者数】合計:471名(一般参加160名、運営スタッフを含む)
- 【基調講演】「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行、その7年間の歩み
川口 淳一郎氏(独立行政法人 宇宙航空研究開発機構教授)
- 【シンポジウム】加山 俊夫氏(相模原市長)
石阪 丈一氏(町田市市長)
戸田 公明氏(大船渡市長)
川口 淳一郎氏(宇宙航空研究開発機構教授)
眞鍋 知子氏(金沢大学准教授)
- 【コーディネーター】松下 啓一氏(相模女子大学特任教授)
- 【分科会参加人数】

1日目	第1分科会	学生・市民が担うまちづくり	92人
	第2分科会	大学のキャリア形成支援について	55人
	第3分科会	地域社会における学生による災害ボランティア	45人
2日目	第4分科会	大学コンソーシアムのマネジメント	48人
	第5分科会	地域を振り下げるコンソーシアム	61人
	第6分科会	一歩進んだ単位互換 ～戦略的大学連携支援採択事例を中心として～	50人





第10回京都学生祭典

公式ホームページ <http://www.kyoto-gakuseisaiten.com/>

開催日時：2012年10月7日(日)11:00-21:00

会場：平安神宮・岡崎公園一帯

主催：京都学生祭典実行委員会

共催：京都学生祭典組織委員会

(構成団体) 京都府、京都市、京都商工会議所、一般社団法人京都経済同友会、公益財団法人 大学コンソーシアム京都



京都学生祭典では、大学の枠を越えた京都の学生の力を集約し、行政・経済界・大学界・地域社会と連携を図った上で「大学のまち京都・学生のまち京都」を社会へ発信し、それに伴う京都全体への波及効果を創出することで京都中の活性化に繋げ、新しい魅力をこのまちに映し出すことを目指しています。また、本祭当日のみならず、学生たちは年間を通して、京都学生祭典を支えてくださっている「地域市民の皆さまと交流を図ることで、地域と一体となって祭典を盛り上げていきます。

表紙の大学



京都美術工芸大学

大学には実現の難しい実学主義を貫いてきた「京都建築大学校」と「京都伝統工芸大学校」のノウハウを結集して、2012年4月に開学を迎えた「京都美術工芸大学」。「伝統の美と技から未来を生み出す」というコンセプトのもと、徹底的な技術指導と幅広い教養科目・専門科目を通じて、実践と理論をバランスよく備えた教育を行います。これからの日本の美やデザインを創造し、広く世界で活躍できる人材の輩出を目指しています。